

館蔵名品展

版画に描かれたくらしと風景

開催趣旨

このたび昭和館では「館蔵名品展～版画に描かれたくらしと風景～」と題して、第1期を平成22年3月13日(土)～4月11日(日)、第2期を平成22年4月13日(火)～5月9日(日)と資料を入れ替え2期に分けて、特別企画展を開催することとなりました。

江戸時代、庶民文化の華であった浮世絵は明治時代になると、西洋の新しい印刷技法の流入や写真技術などの普及によって衰退の一途をたどっていました。しかし、自画・自刻・自摺によるオリジナル版画(創作版画)を作ろうとする才気溢れる若手作家と、伝統的版画の復活(新版画)を目指し芸術性の高い作品を制作しようとする新たな流れにより、木版画は再興され、海外にも紹介されました。

戦争が始まると画題も戦時色の強いものが制作されるようになり、昭和18年(1943)には日本版画奉公会が結成されました。戦後になり、21年6月には日本版画協会の展覧会も再開されるなど徐々に明るさを取り戻しました。

当館では昭和を代表する版画家川瀬巴水や恩地孝四郎らの作品を数多く所蔵し、その中より今回珠玉の名品200点を展示します。版画を通して、昭和初期から戦後にかけての、現在とは異なった、懐かしい風景や人々の生活の様子を紹介します。

記

【主催】	昭和館 平成22年3月13日(土)～5月9日(日)
【会期】	【第1期】平成22年3月13日(土)～4月11日(日) 【第2期】平成22年4月13日(火)～5月9日(日) ※4月12日(月)は資料交換日
【会場】	昭和館3階 特別企画展会場
【入場料】	特別企画展は無料(常設展示室は有料)
【開館時間】	10:00～17:30(入館は17:00まで)
【休館日】	月曜日(祝日の場合はその翌日が休館。3月22日・5月3日は開館、5月6日は休館)
【内覧会】	平成22年3月12日(金) 15:00～17:00
【所在地】	〒102-0074 東京都千代田区九段南1-6-1
【問い合わせ】	TEL 03-3222-2577 FAX 03-3222-2575
【交通(電車)】	地下鉄【九段下駅】から徒歩1分(東西線・半蔵門線・都営新宿線4番出口) JR【飯田橋駅】から徒歩約10分
【交通(車)】	首都高速西神田ランプから約1分
【ホームページ】	http://www.showakan.go.jp
【その他】	有料駐車場有り(普通乗用車のみ・1時間200円)

展示構成

I 版画とそれぞれの時代

江戸時代（1603～1867）には盛んであった浮世絵や錦絵が、明治時代（1868～1912）になると衰退していったが、大正時代（1912～1926）に入ると多くの若手芸術家によって伝統版画の復活や創作版画の運動が巻き起こった。戦時下には活動が制限され、画材などの物資不足に苦しむ時代があったが、戦後すぐに活動は再開された。

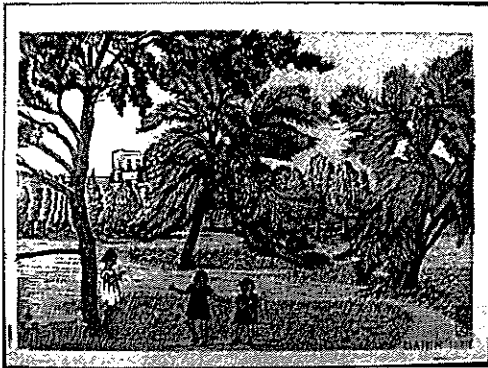
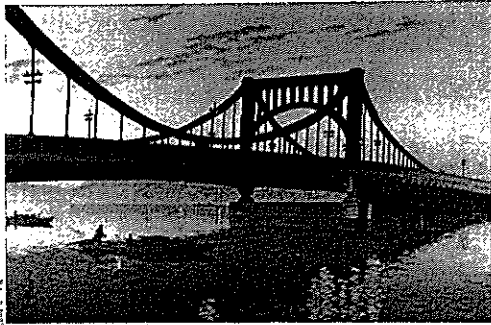
1、新しい版画の創作

江戸時代、庶民文化の華であった浮世絵版画や錦絵は、明治時代になると、西洋の新しい印刷技法や写真技術などの流入によって衰退の一途をたどっていた。大正時代に入り、これを憂えた版元の渡邊庄三郎（1885～1962）は、画家（絵師）・彫師・摺師の協同作業による伝統版画の復活を目指し、新版画運動を展開した。

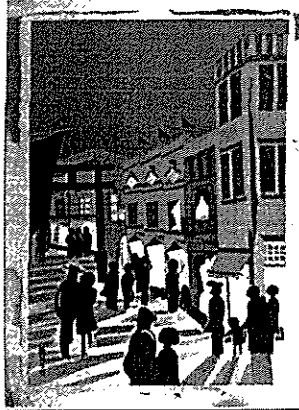
その一方で、若手芸術家たちは彫刻刀を筆と考え、自画・自刻・自摺によるオリジナル版画を作ろうという創作版画運動が明治末期から起こった。

双方の創作活動により芸術性の高い作品が数多く制作された。

【第1期】

	
<p>「東京風景」より外苑 織田一磨 昭和5年(1930)</p>	<p>清洲橋 川瀬巴水 昭和6年(1931)2月</p>

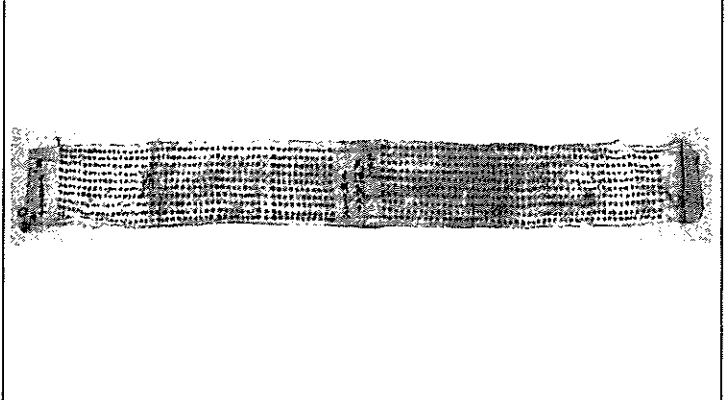
【第2期】

	
<p>渋谷百軒店 前川千帆</p>	<p>霧之朝(四ッ谷見附) 川瀬巴水</p>

2. 戦時下の版画

昭和 12 年(1937)に戦争が始まると、画題も次第に戦時色を表すものが多くなり、慰問のための献納版画を供出したり、戦意を高揚するような画題や富士山、過去の偉人画などが制作されるようになった。

また、物資不足が深刻化したため、生活そのものが圧迫し、版画奉公会に所属しなければ紙や絵の具が配給されなくなり、制作したくても困難な状況となった。そのため空襲を避けて疎開する版画家がでてきた。

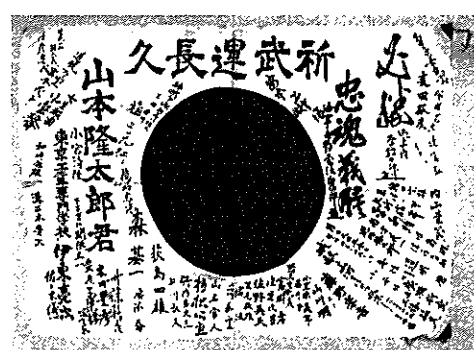
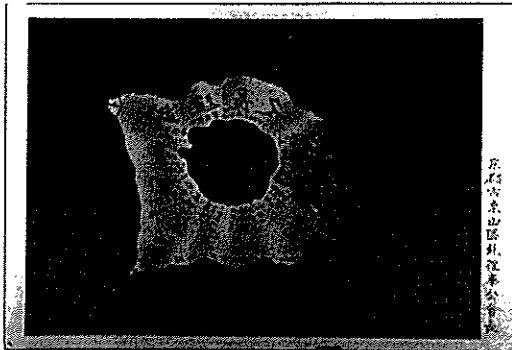


(左) 支那事変版画 第三篇 千人針
井川洗厓 昭和 12 年 (1937)
(右) 支那事変版画 原画 千人針
井川洗厓

千人針

千人針は日露戦争の頃、千人結などと呼ばれ流行したものが、日中戦争の頃に全国的に行われるようになった。出征する兵士の母や妻などが、腹巻用の白や黄色の布やチョッキや帽子に、赤などの糸で糸玉を女性に一針ずつ結んでもらい、戦地での弾丸除けのお守りとして贈った。

この千人針は浦山義一さんが出征の際に贈られたもの。浦山さんは昭和 17 年 (1942) から富山県中ノ口国民学校訓導 (現在の小学校教諭) を勤めていたが、18 年末に陸軍に召集された。千人針は担任をしていた女兒児童が近隣を回って縫ってもらい、贈ってくれた。



国旗は輝く
小早川秋聲 昭和 16 年 (1941)

日の丸寄せ書き

出征家族に京都市東山区銃後奉公会より贈られたもの。空に翻る日の丸は、出征軍人に贈られる寄せ書きを表している。

国民皆兵制度の下では、戦地へ向かう兵士たちが遺された家族たちのことを心配しないように、社会制度の一環として出征遺家族・傷痍軍人・帰還軍人への援護や保護が行われていた。また、法律で定められた恩給の給付などだけではなく、民間の自発的な活動も盛んに行われており、戦没者の遺家族は“誉(ほまれ)の家”などと称えられ、軍人援護会・婦人会などを中心にした軍人遺家族への援護活動も活発に行なわれていた。


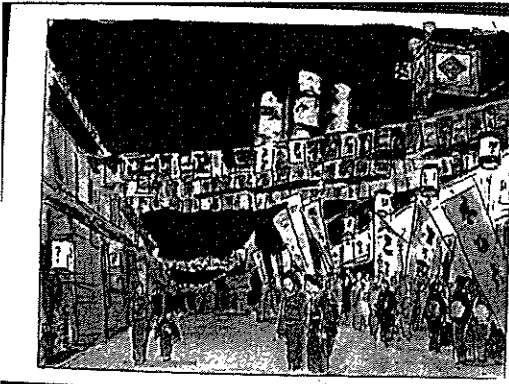
3. 戦後の版画

戦中に制作できなかった熱意を取り戻すかのように版画の復興は早く、昭和21年(1946)4月には日本版画協会の第14回展が開催され、国展や春陽会展なども次々と再開された。

戦災によって焦土と化したかつての名所を名残惜しく思い、以前の姿を回想して版画に残した作品も作成された。なかには画題等に英語が併記された作品も作成された。

【第1期】

【第2期】

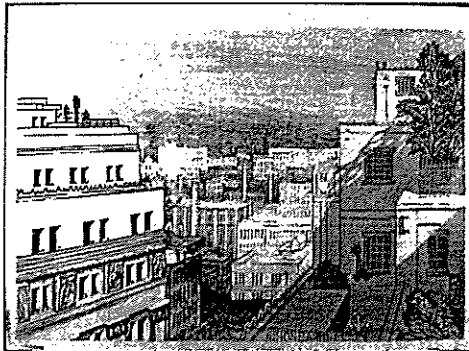
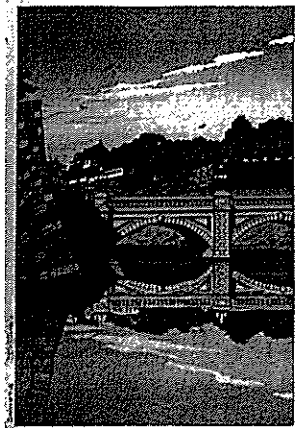
	
<p>東京回顧図会 東京駅 恩地孝四郎 昭和20年(1945)12月20日</p>	<p>大阪三十六景6 道頓堀 赤松麟作</p>

II 版画に描かれた風景

版画の題材として多くの画家たちに選ばれたテーマが風景である。写真と違い、そこに描かれた風景は、作者の心象を反映し、デフォルメされている。当時撮影されたモノクロの写真と比べることで、画家ごとに異なる構図とその彩色の妙を感じとることができる。また、見ることでできなくなった風景を現在の写真のなかに重ねることもできる。

【第1期】

【第2期】

	
<p>「東京風景」より日本橋附近 織田一磨</p>	<p>二重橋の朝 川瀬巴水 昭和5年(1930)12月</p>

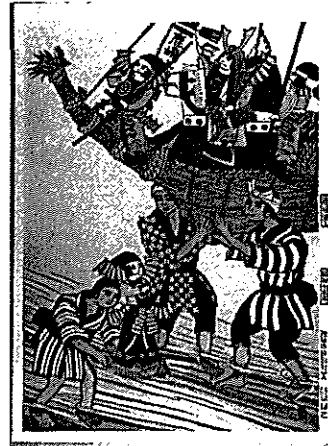
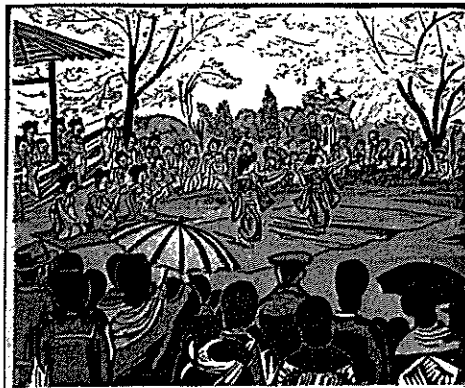
Ⅲ 人々のくらし

木版画に描かれた風景は、人々の暮らしや伝統的な風俗、様々な職業に従事する人々が生き生きと描かれ、当時の雰囲気を感じ取ることができる。ここでは、行事、ファッション、生業という視点で、昭和の人々のくらしと風景を見ていく。

1. 行事

【第1期】

【第2期】



花見
前川千帆

秋田風俗十態 鹿嶋流し

鹿嶋流しは紙細工の武者人形を、草で編んだ船に乗せて川に流す秋田県大曲地方（現・大仙市）の風習。武者人形に悪疫退散や五穀豊穡、町内安全などの願いを込めて流す。
勝平得之

昭和13年（1938）

2. 女性のファッション

【第1期】

【第2期】



支那事変版画第七篇
銃後婦人団体の活躍振り
井川洗匡

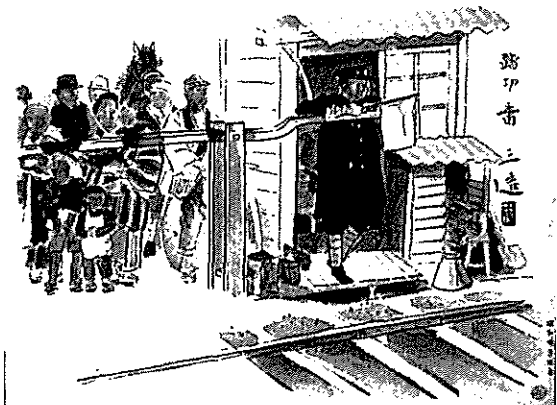

ピクニック
前川千帆

昭和13年（1938）12月

3. 働く人々

【第1期】

【第2期】

	
<p>昭和職業絵尽 第1輯 18 踏切番 和田三造 昭和15年(1940)3月</p>	<p>屋台 徳力富吉郎 昭和25年(1950)</p>

IV 版画のできるまで

伝統的木版画は、肉筆画と異なり多くの職人（画家・彫師・摺師）によって制作がすすめられる。その工程をすべて管理するのが版元である。この制度は、浮世絵の時代から引き継がれている。基礎的な技術をマッチラベルや紙のしなどの小さい作品の制作で習得し、その後絵画作品などの大きな作品で腕を振るうというのが、現在ではマッチラベルなどの制作の需要が少なくなり、技術の伝承が難しくなっている。

イベント
<p><昭和の遊び> 紙芝居の実演、景品がもらえる輪投げなどを行います。 ○3月27日(土)・3月28日(日) 11:00~15:00※ポン菓子の実演あり ○5月3日(月)~5日(水) 11:00~15:00 会場：昭和館2階ひろば</p>
<p><展示解説> ○4月3日(土)・4月24日(土) 14:00~ 会場：昭和館3階特別企画展会場</p>
<p><木版画摺りの実演> 摺師による摺りの実演を行います。 ○4月4日(日)・4月25日(日) 11:00~、13:30~ 会場：昭和館1階懐かしのニュースシアター 実演：アダチ伝統木版画技術保存財団</p>

【問い合わせ先】

昭和館学芸部 03-3222-2577
担当:杉本・財満(ざいま)